



次代を担う若者にエールを

～明智光秀が築いた城下町～

京都府福知山市 市民憲章運動推進第56回全国大会 福知山大会





「市民憲章運動推進第56回全国大会 福知山大会」が11月19日、20日、京都府福知山市で開催された。全国各地から市民憲章運動を推進している実践者、行政関係者が福知山に集った。コロナ禍などの影響により一堂に会しての開催は3年ぶりとなる。

大会オープニングは、福知山踊振興会と福知山淑徳高等学校淑徳和太鼓部が飾った。福知山踊は、福知山城築城の際、石材や木材を運ぶ時の「ドッコイセ、ドッコイセ」と手振り足振り面白く唄い出したのが始まりと伝えられている踊り。

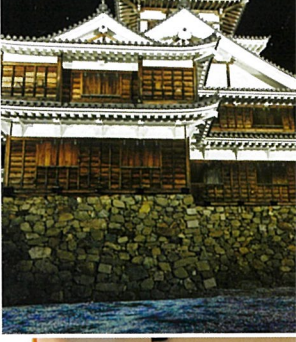
明智光秀ゆかりの地、福知山。光秀は織田信長から丹波国の統治を任せられ、福知山城を築城。その他にも地子銭の免除や治水事業を行うなど善政を行ったと伝えられる。ほどなく本能寺の変を引き起こし、山崎合戦の後、非業の死を遂げるが、福知山の人たちは光秀の事績を忘れることなく信奉し、名君として現在でも「光秀公」と呼ばれ親しまれている。

オープニングセレモニーのあと、昨年度リモート開催となった沖縄県石垣市の浦内克雄・石垣市民憲章推進協議会会長から福知山市へ会旗が引き継がれた。つづいて唱和文を参加者全員で唱和し開会式となった。主催者あいさつで田村卓巳・全国市民憲章運動連絡協議会会長(福知山市市民憲章推進協議会会長)は「コロナ禍の3年間、世の中は大きく

変わった。侵略、分断、隔離等が起こり、人と人が助け合い、尊重し合い、許し合う「共に幸せを生きる」社会の実現は、ますます困難な状況となりました。しかし、それゆえに50年にわたる全市憲の歩みをしっかりと見直し、次代につなげていく必要性を痛感しています。だからこそ、今回のテーマを「次代を担う若者にエールを」としました。今大会は、大会運営や発表の場を高校生に任せ、新しい全国大会のあり方を、ここ福知山から発信していきたい」とあいさつ。

開催地市長の大橋一夫・福知山市市長は、「市民憲章の目指すところは、私たちの住むふるさとを誰もが幸せを感じることが出来る魅力的なまちにするための自主的・自発的なまちづくりの実践。その取り組みは未来ある若者たちにつなげていくことが肝要です。この大会では、青少年の主張入賞者によるスピーチ、高校生による和太鼓や吹奏楽の演奏発表を通して、参加者の皆様が未来を背負う若者たちの力を感じていただけることを期待しています」とあいさつした。

記念講演は参議院議員、元公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長の橋本聖子さんが「未来を切り拓く力」と題して聴衆を魅了した。橋本さんは小学1年生の時にスピードスケートでオリンピックをを目指す決心したという。ところが、小学3年生で腎臓病を患う。高校3年で再発。院内感染でB型肝炎にも。しかし、リハビリで目にした、障がいのある子どもたちがみんな笑顔でリハビリを頑張っている姿に目覚めさせてもらったと



いう。そうした自身の経験からスポーツ医療センターの推進や対処医療から予防医療への切り替え等呼び掛けた。

まちづくり実践発表として、福知山西南ロータリークラブ主催「青少年の主張」最優秀賞を受賞した月原皓輝さん（福知山淑徳高等学校3年生）による発表。「福知山の魅力に迫る」をテーマにスピーチ。①文化が交流するまち、②繰り返された災害を乗り越えた共助のまち、③歴史と伝統を継承してきたまちの三つが魅力とした。福知山への恩返しとしてSNSで福知山の魅力を発信中とのこと。

つづいて京都府立福知山高等学校・附属中学校吹奏楽部、福知山成美高等学校吹奏楽部による合同演奏では、「ディズニーメドレー」や「故郷の空」が会場を盛り上げた。

次回開催地となる山形県の鶴岡市民憲章推進協議会にシンボルマークの会旗も手渡された。

全国大会のあとは、会場を移して交流交歓会となった。交流交歓会は、3年ぶりの再会となる多くの仲間との交流を楽しむ時間。オープニングで京都府立工業高等学校のMambou Jazz Bandがジャズ演奏を披露。その後、全国の市民憲章運動関係者が、日頃の活動を基に情報交換や旧交を温めた。

2日目は福知山の名所旧跡の研修視察。大原神社・産屋や芦田均記念館、福知山城を見学した。

次回の開催は、山形県鶴岡市において令和5年10月21日から22日の予定。